

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 3月 2日

開催日	平成27年 2月26日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂3号室	出席人数	15名
講 師	真田雅行氏	作成者	沓掛勝利
テーマ	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事②		
概要	<p>前回の鳥島に漂着からアメリカの捕鯨船に救助され、ハワイ・オアフ島到着まで。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・三月頃十里程沖合を通過する大船に合図のため物を振ったが気付かず通り過ぎた。</li><li>・四月頃大鳥が取れなくなり、磯貝を食用にした。大鳥の動きから山の上に居るのではと考え、万次郎が山に登ってみると平地が有って、石積みがあり誰がいるのかと見廻したが人影は見えなかった。石を取った後の窪みに雨上がりに水が溜まると見え、大鳥が居て、12羽捕り持ち帰り皆が大喜びし、以後かわるがわる捕りに行き、毎日食べた。</li><li>・此島での日々は変化がないので詳しくは記さない。在島170日也。(とあるが143日との資料の方が正しい様だ)</li><li>・六月三日頃、巽の方向遥か沖に白帆が見え、一同その船がこちらへ来るようにと神仏に祈った。昼頃船が五里程の所へ近づいてきたが、風向き悪くて南西の方へ廻り、山の陰に隠れてしまい、皆力を落し此島で死ぬのかと歎いた。或は南西の方に着くかもしれないと万次郎が一人で十町程山を回り込んで見ると、白帆が二つ見え近づく様なので、喜んで戻り一同に告げて直ぐに行く。五右衛門、寅右衛門も後を追う。船が三人を見つけたのか、船を廻す様子なので、襦袢を脱いで振ると、船からも笠で招いた。</li></ul> <p>二十間も高い崖の上に居たので、着物を尻に敷いて荒磯までずり落ちる。着物を頭に巻いて泳いで来いと、の解からの仕草に従い、泳いで行くと水主が引き上げてくれた。二人の水主が岩穴に居て恐がり逃げんとする伝蔵、重助を無理に解に乗せて来て、本船に乗せた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・翌朝、船長の指示で万次郎が陸に残した衣類を取って本船に戻ると、豚を焼いて一同に食べさせてくれた。</li></ul> <p>その後、島を離れ北の方へ乗り出した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・十日程して鯨を見掛け解四艘を下し、一艘に六七人ずつ乗り、鯨を取りに行く。本船長さ三十間、幅七間余、人数36人。解長さ四間二尺、幅一間程。船名はジョン・ハウランド号(ジョン・ハウランド号、捕鯨船)、船頭はフィツセル(船長ホイットフィールド)。</li><li>・右島を出帆して四か月間で鯨二十本取、十月中頃西洋のウワフ国(ハワイ・オアフ島)へ着船。此地周廻り三十里。(その他人種、風俗、気候、諸国交易場等オアフ島の説明有り)</li><li>・伝蔵、五右衛門、重助、寅右衛門は此地の役人に預け置、万次郎のみ他の船員とともに捕鯨のためオアフ島を出帆す。(出帆直前に船長から万次郎をアメリカへ連れて行き教育したいとの希望が責任者伝蔵に伝えられ、万次郎の同意を得て彼のみ捕鯨船に同乗。航海中船長よりアメリカやその他全般について教育を受け、万次郎の関心高まる)。</li></ul>		
次回予定	平成27年 3月12日 10:00～12:00	於: 金沢公会堂3号室	
	第一学習 永嶋家文書③		